

慶應義塾大学言語文化研究所
2022年度総会記念講演会

中世哲学とラテン語の世界

<日 時> 2023年3月4日(土) 16:15~18:00

<開催方法> ハイブリッド開催
(慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール・Zoom Meeting)

<講 師> 山内 志朗 君 (慶應義塾大学文学部 教授)

哲学という学問は難しいものというイメージで考えられています。何の役に立つのかということも話題になります。哲学の中でも、中世哲学はスコラ哲学とも言われ、煩瑣で現実離れした空虚な議論の哲学体系と考えられてきました。さらに、キリスト教を基本とした哲学ということもあって、日本では敬して遠ざけられるものでした。

中世哲学の紹介に研究の多くを振り向けてきました。学ぶのに障害となっているのは、ラテン語で書かれたテキストで、ほとんどのものが翻訳されていないままだということです。翻訳が進めば理解が画期的に進むかと言えばそうではないかもしれません。日本語になりにくい側面もあります。

今回は私が研究の中心としてきた十三世紀の存在論の様子を話題にします。イスラーム哲学の影響を受けて、パリ大学で講じられた話題に存在をどう捉えるかということがありました。ラテン語だからこそ踏み込める存在論の世界をお話しします。

<参加申込> ※事前申込制

- ・参加ご希望の方は、お名前・ご所属・参加形式を明記の上、メールにてお申込みください
メール: genbu@icl.keio.ac.jp
- ・会場参加の方は、当日、直接会場にお越しく下さい
- ・オンライン参加の方には、事務局より別途オンライン開催情報をお送りします
- ・参加申込についての注意事項詳細は、ホームページをご確認ください